

「^しの 偲ぶ会」を通して

Yさんとの思い出を胸に

足羽利生苑では人生の終末期において『ああ、良い人生であった』とご本人やご家族の方が安心して最期を迎えられるような支援をめざしています。

その中で利用者の方が足羽利生苑または病院で天寿を全うされた後、介護職、看護職が集まり、その方を偲びながらこれまでのかかわりを振り返る『偲ぶ会』を設けています。今回は、その偲ぶ会の役割を紹介します。

あふれる想い

偲ぶ会では、それまで利用者の方の生活にかかわって

偲ぶ会での職員の思い

(昨年お亡くなりになったYさんについて/一部抜粋)

- ・Yさんは、山形弁で話す親しみのある方でした。優しく声をかけていただきありがとうございました。
- ・歌が好きなので、職員と一緒にカラオケBOXによく出かけました。『あなたとカラオケ行くの楽しみなんや』と言われた一言がうれしかったです。Yさんと一緒に歌うことで昔の曲を知ることができました。本当にありがとうございました。
- ・最後に一緒にたけふ菊人形で過ごした時間は、忘れることのない良い思い出です。
- ・食事量も減り、元気がなくなってきたYさんの今後の対応について話し合いました。結果として、できるだけご本人の意志を尊重し「飲みたい」「食べたい」「起きたい」という本人の希望に沿えるように、お世話させていただきました。
- ・ご家族の方がYさんの気分転換に、外出や散歩に連れて行ってくれたときのYさんの表情は笑顔でいっぱいでした。ご家族の存在はとても大きなものだと感じました。



たけふ菊人形へ外出し、笑顔いっぱいのYさん

生活を送ることができました。また、ご家族が来られると、とてもうれしそうに会話を楽しまれていたことが印象的です。

Yさんの好きな食べ物を差し入れてくださると、食欲がないときでもおいしそうに召し上がっていました。Yさんにとってご家族の存在はとても大きなものと気づかされました。

ご家族と想いを共有

偲ぶ会での職員の思いは、お便りにしてまとめ、足羽利生苑で行われる彼岸法要の日にご家族にお渡ししています。

その思いをご家族に知っていただくことで、改めてご冥福をお祈りすると共に、その方への想いをご家族と共有することができそうです。Yさんのご家族からも次のような想いを聞かせていただきました。

きた職員個々から、感じた思

いや気持ちがたくさん出てきます。中には涙ながらに思い出を話す職員もいます。

今回の偲ぶ会では、Yさんの支援について振り返

りました。

Yさんは、長年生活している自分のお部屋に親しみを持っていました。そこで、今までと変わりない生活を

送っていただくために、

最期までご本人のお部屋

で過ごしていただき、静養室への移動は行いませんでした。

その結果、Yさんはなじみあるお部屋で安心して

Yさんのご家族より

家に帰省したときに、母はよく時計を見ては「もうそろそろ、利生苑に帰らなあかな」と話をしていたのを覚えています。母にとって足羽利生苑での生活がとても住み心地のよいものだったのだと思います。

体調が悪くなり自分で食事をとれないときでも、私たちに「ちゃんとお飯食べてるか？」と気づかってくれた事は今でも忘れません。

利生苑の皆さまには、お世話になりました。本当にありがとうございます。

このような、言葉は職員
の心の励みになります。

職員の心の支え

Yさんが亡くなられたとき、職員は「Yさんにと

って満足のいくケアができたろうか」「自分はYさんにもっとしてあげられることはなかったのか」など、自責の念にかられることがあります。

しかし偲ぶ会を行うことで、Yさんと一緒に過ごした時間の中で感じた喜びや、自然に笑顔が出るようなかわりができたことに気づきます。

そのことで、利用者の方の死に直面した職員の心は支えられ、次の利用者の方への支援につなげることができます。

死と向き合い よりよい支援を

偲ぶ会は利用者の方との思い出や、職員としてのかわりを振り返る場です。どのような支援がその人の喜びと安心につながったのか、考え確かめることができます。それは、今後の私たちの支援のあり方を方向づける指針となる、

大変重要なものです。

会を重ねる度に、利用者の方が安心して過ごしていただけるように、細やかな声掛けや、利用者の方の想いを傾聴し受けとめ、気持ちを含めて接しようという思いが強くなります。

また、ご家族も一緒に介護に参加していただけるような関係・環境づくりを行い、かけがえのない時間を過ごしていただけるよう支援させていただきます。

利用者の方に最期までかわられたことを感謝しながら、一瞬一瞬のふれあいを大切にしていきます。



あふれる想いをかたちに

みんなの広場

こんな人いますよ



ジャパンカップ地区予選 北陸大会にて 平成20年6月



明るく元気に
頑張ります☆

足羽利生苑デイサービス職員の前田恵さんは、福井県で唯一の社会人チアリーディングチーム「WENDYS」に8年間所属し、リーダーを務めています。

昨年、足羽学園・足羽更生園の夏祭りでは演技を披露し、利用者の方々は「もちろん、ご家族や職員にも大変喜んでいただきました。」

チアリーディングはとても華やかですが、体力が必要不可欠です。前田さんは週に3〜4回練習をして、技を磨いています。そして一年を通してさまざまな活動を行っています。

「福井県にチアリーディングを広げるために、今後も活動の機会を増やしていきたいです」と意気込みを語る前田さん。今日も前田さんは元気いっぱい跳ね回っています。